

外科専門医に聞く

消化器外科部長 **つねだ あつし**
経田 淳



乳がん検診について



乳がんとは、乳房にできる悪性腫瘍です。今では11人に1人が乳がんになるとされていて、日本人の女性がもっともかかりやすい（罹患率第1位）がんです。乳がんになりやすい年齢は、30歳代後半から増えてきて40歳代後半と60歳代前半にピークがあります。しかし、どの年代にも発症の可能性があります。「まだ若いから」「出産・授乳経験があるから」「もう閉経したから」といった理由で安心することはできません。一方、死亡数は第5位を示していて、乳がんは早期に発見すれば比較的治りやすいがんとも言えます。実際、早期（2cm以下でリンパ節転移無し）に治療を行えば90%の方が治るといわれており、少しでも早く発見して治療を行うことがとても重要です。そのためには乳がん検診が重要になります。

乳がん検診と言えば、マンモグラフィや超音波検査（エコー）を思い浮かべますが、マンモグラフィだけが唯一死亡率減少効果が証明されています。マンモグラフィ検査とは、乳房をプラスチック板で挟んで撮影するレントゲン検査です。厚生労働省では乳がん検診の方法として40歳以上を対象として2年に一度マンモグラフィ検診を推奨しています。しかし、検診受診率は欧米諸国と比べ非常に低いのが現状で、乳がんの発見契機はまだ半数以上が自己発見といわれています。早期発見のために乳がん検診はぜひ受けてください。早期発見のメリットとしては他に、がんの治療が軽くなり、その結果身体的、経済的負担が軽くなることや、乳がんではないことを確認することで安心できる精神的な利点もあります。

超音波検査に関しては、現在のところ検診には導入されていません。しかし、マンモグラフィ検査が不得意なところを補う目的で、こちらの検査の方が適している方もおられます。医師と相談してください。

どのがんでもそうですが、乳がんは特に早期発見することで治る可能性の高いがんです。乳がん検診をぜひ受けるようにしましょう。また、精密検査が必要と判定されたら、早期発見の好機ととらえ、怖がらずに精密検査を受けるようにしましょう（10%の方は精密検査を受けずに済ませてしまっています）。それが自分を含めて大事な方の幸せにつながります。



発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山ろうさい病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

【連絡先】0765(22)1280(病院代表)

E-mail: chiiki2@toyamah.johas.go.jp